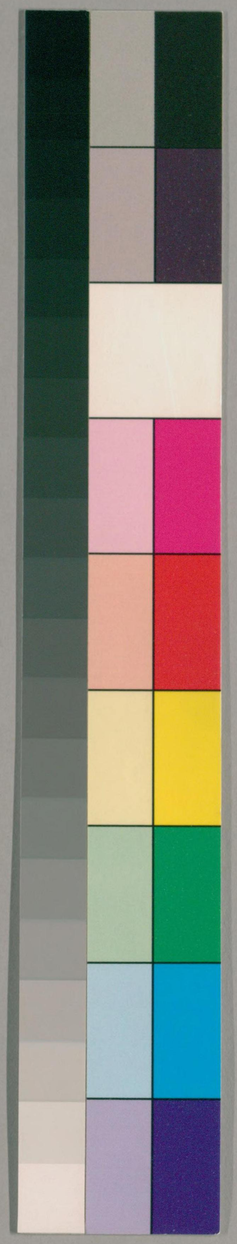
853
166

函號 二架
書名 二十一代集
冊數 五六
類 和歌 七八

新續古今和歌集

第七三號



国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

新撰万葉集巻第十七

雑哥上

寛治二年百首哥の奥にかきつけ侍ける時藏門之

春ごとの事を

前大納言為家

支考書
あさ氷とけよるくる春の日の
影にうすらぐ
家集不載
浦ちかくむすぶ氷も遅き日の
ゆるぶ心は
春やしるらん

題しらず

ゆきみちりかをもむをれぬ梅の花
鹿苑院入道前太政大臣

春日詣侍ける時

古今集歌

春霞たなびく山のさくら花
うつろはむとや色かはりゆく

順徳院御製

百首哥奉りし時

古今集のこゝろを

春たてば花とや雪のふりぬらむ
たえだえ見ゆる白雲の峯

前大僧正猪守

古今集の心を

うちとけて春立つ霞ながむれば
袖にぞ花の香もうつりける

権少僧都浄慧

海辺春望

紀の海や史氏の湊乃朝なぎに
白帆ぞ見ゆる沖つ島守

[illegible]
[illegible]
[illegible]

五月雨やおもふ一せのあやめ草
　文保百首　中宮内侍

おきみその袖の露やそふるらん
　ひるくるみだれ梅花のさけるかを
　　後飛鳥井雅

心あてに人こそとはれさきそめし
　梅なき軒の夏の初風
　　法二位長方

春のくるそれともしらぬ梅花
　世をのがれてや梅薫軒とりこもる
　　尋縁法師

色も香もふかき墨染袖ふれて
　春雨をしむ小柳うの匂ふ梅の下風
　　鷹司院帥

春もせく袖のせとやも春雨の
　ふるとは人のぬれてをるらん
　　紀行長

河岸のうけゆく水のうちなびく
　春月を
　　贈従二位為子

あかなくにかすみなそやそらの
　月
　　後京極

住吉社

かうこ(古)やむりの秋行く雁
帰鴈を　源詮信

あまたに物うき秋世中をいとひてたのめん
奥和百そ命よ　前大納言実教

ゆく先もおぼつかなきうき道こそいとゞ
秋ぞかなしき　法印慶運

たのめおきしものむなしくなりぬるの別
伊(あ)　萩原宗秀

めぐりあはん拾(拾)世をかけて契らん秋の月小池のかげ

光厚後鶯のかたりよさうをうつ(之)給ひて

うぐひす(名)のこゑもたゆ(た)くなれ衾
百首哥たてまつりし時

経之伝氏入

うぐひすのはつねをなつかしみ
傳西来縁

鳴やうの花の本をいとはしく
易花と云事を

世珍う心を山乃ふもとより
新玉津嶋社奉納

指焼師則祐

いたくふもとの山寺の紅葉の
おもしろかりしを

分けくもてかざしもみぢも山橋の
紅葉の下は　藤原為景朝臣
ふもとかぜ吹きもたてよ山橋の
きえぬ紅葉のよそめなりけり

てる月の影は今宵ぞ君まちえてかも
くてふ秋の紅葉をもてあそぶらん

[illegible]もれ乃花さそふあらしの風もきそなし
　落花を　　信正實意
うらもなくさ風ふきすてゝ花のちるをや人のをしむ
　花のちるを見て　　津守國村
あすまても見んとや花もまれ風まつまてもちるやならん
　　飯岡法師
うき事をもなくさめつゝ櫻花いたせよとてやかくや哀ん
　　法印守遍
ちる波のよる風よ花ちるの名をやみるれ
久安百首奉
　上西門院兵衛

櫻花
春の夜に水をまかせてをる物も風乃ちるん
　　投源草院浄財
ちる花をみるにつけ時石清水源時參の日さく
ちるやうにひらをれ給へ
　　後深草院御門
ちる花を流す川水よなくて花のゆくを秋かとやみん
兼久元年内裏合に當帰合とらことを
　　菊原信實朝臣
谷川をゆく世の花いくそ〇とものあるをそようらのそれ
　　津守國助

春ふかみ花をみくもる
人こゝ百首のめさ
まもれぬ

崇徳院御製

山里はさくらさき宿の
数々を

源頼政朝臣

吉野山こぞもことしもおりけさうつろやまさの
花

四条大納言隆房女

散ちりてさきさき花よ立
文保百首 前中納言實任

神もいかみきの花乃蔭
花

前関白太政

藤をとめる

春日山おもふきみ花乃
應永六年三月興福寺の金堂供養せる
日光願つゝ

前大僧正道意

咲そめし花の方より
雅成親王

言葉のみを
いつもの時もん秋にるけくきみをれと

法印慶運

さくらこそ

延文二年百首 [illegible] 更衣を

前大僧正賢俊

わすらるる [illegible] 神の [illegible]

永和百首 [illegible] 卯

時しらぬ [illegible] 頃

[illegible] 迄入道おほ [illegible]

郭公 [illegible]

時鳥 [illegible] 度の山乃端を [illegible]

後花山院内大臣

郭公 [illegible]

前大納言為定

杜郭公を

[illegible] 郭公 [illegible]

前中納言宗宣

[illegible] 頃

祝部成久

[illegible] 指

[illegible]

[illegible]

[illegible] 郭公 [illegible]

[illegible] 山 [illegible]

権三位氏久

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

又着ハ古ゝろそ行ほ
千又百書今合今
今いそ古るゝ山乃
年ゝろこりめく
人の許まうをあ
思ハ
うゝろ引てれをひる
許まうみゝろ百ゟ
裏草を

古

古

古

[illegible]

前大納言為世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年ゆりも松乃けふ
をむそひく　お前
夏ふかきみ山のふもとすゝしさを
樹陰納涼
日とともにふりてこゆる秋の下
朗詠　仁景
乱しらす
うく鶯のさそふ水さへ月の
鞭を　前関白左大臣
雨ふかき山の本より夕風に
駒冬扇

拾
ふるさとをわかれのとりも
なきつらん
ちとせをへぬる
きりくすの松

我乃こと秋もなからん宇野
応治二年百首　二条法親王守覚
ふるさと山風吹そふる秋を思ふて
秋を経て後秋
みそらやむらくも神を
古
哀傷
あら波や雁をまねきし
玄秋風にこゑ添て
まん人しらす
牡鹿秋上　中務卿宗良親王
ひさしくも
古
八牡鹿

松ふるみちもうらさひ行夏の
千文字百書字合せ
燈をかゝげのみ月共さゝんまで
遠長き夜も九月十三夜 新撰字合より
蕎麦も実落敷宣
寝ざめうさそれかゝるの風ぬしや
遠條二年八月内裏字合
大納言通具
萩の葉に雨ふる山の雫迄 雅経
百首哥よみける時萩
前参議通敏
風ふけば露もまだ萩の
をいづる
むらくもの秋の初風乃ちさ萩の風
七夕のこゝを
民部卿資宣

あるうちも春をやうち年をへて寺ふ柔ちうち

七夕の契ことわりの川みをとやありうちうん

陸奥守国量

陸奥権院中納言

村の秋をこそもなくぬれてなりやうん

野径萩を

源基之

村雨の花うちもなくぬれてなりやうん

橘直村

ト此まて五つ首二の秋歌ハ兼て家や通ん

をこれてなとあり

左京大夫藤原道経

七夕ものこゝろを小細うちうて誰とりうの野ちん

ほの松流して契をさゝやうつまりけり

万小稲妻を

権中納言経成

秋の雲のねそおくもるる宵の稲

よあうへいうくぬりまれハうつけもう

従二位家小宰相

神の森も清うち園の杜乃

権兼長こゝ五腰天不明とうの事を

太宰大貳高遠

秋の夜乃月乎よめる

[illegible]

きりやらぬあれな但馬乃奥よりも雲井わたらふ秋のつき

家百首歌よめる　攝政左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さらのおくやまもさこそ澄のぼる秋の月

寛意法師

村雨のおくも浦さびて秋も心やあはれみのうら乃月

法花堂入道左近将監家百首歌合に海月

住吉傳都光朝

よもすがらまつ浦ちかくなるくとも月も更わたるらんの浦

月照石清水

よもすがら苔清の流乃あやうきまでや月のやどるらん

後深草院撰河の妻楽若菜のつゝ

よ音一ふく〳〵葉ずゑ吹せてあり明の嵐

参一位宗尹

ふしおろや井の月も更ぬ関もりの声

真縁上人

月清し今ぞ中よ

後水尾院御製

やすらはぬ寝ぬ夜の月をうらめしと思ひ出よ

弘長百首奉りし時

九條前内大臣

てのほ月もやあ
のそら海をせてと
今ふる君の光を雪もて
乱しらす
いさいかや住ふれの
景光院ふそくく
九月十三夜 約
後八条入道前内
儀同三司実

七月や月もよめる影みて
ねー
ふる月やうさ世を秋の月み
月前虫
山のふ雲こ虫の
小倉山 古
羽鹿とい事を
帰ふれ
建保名所百首奇

後八条入道前内
奥
宗仲法師
源持春

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

なの芳八社のさら社の鹿乃声

宝治四年七月七日の後朝に

れきろ沈のくるよ芳山鹿を

前参議忠宣

時雨ゆく外山のそまの鹿の音に

秋の田ふきうめみそむる

儀同三司資家

なの時田家鹿

後京極摂政前太政大臣

秋の田のかりほのいほのとまもあら

らし衣手露にぬれつゝ

摂政

紀伊をもち

秋の花うつろふ春日野のうもれ

かの月ぬる明乃月よ妹みくら

さもりろよ衣をかりてと秋

古

後古社よりきろ乃里人

摂政のかりこさ衣さらこめく

あま乃ちよそを乃くく

藤原雅親

藤原雅経

正三位家邸

前参議忠朝卿

百十四

わくらばにとまるも哀れ入野の
すすきもるる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

千載　定家

雅経集正治二年十月

雅経集下

寒草を

懸濕ハ雄黄伊丹ともいふを丹後と此ある
傷濕とつけくわしく
但しかのことくにのつくりかたの
ひとつ傷濕とつけるものなり

寶治百首奇よ浜千鳥

前大納言忠信

あひみてもかりそめならぬ契とや
忘れぬ人の跡をとゞめん

源経有朝臣

人もなれもとまりこし跡ぞとも
しらぬ浦わの浜千鳥かな

津守國豊

しのかりのかこの湊乃夕潮よ
立舟ありてこゑ数多るとのよ事をよ

おさ川風あくいく月新もさも浮ひよまるる
水鳥を　　道誉法師
立風きせとうさそるのみさ
秋末寒さひひてもかりねられてもやうぬひりり
冬の乃中よ　　三善資連
いく夜ねさうや妻よ池水の
有疑
網見水鳥こり事を
二条法親王守覚

指
ゆきあらやうしめ
みしらをわうそ
そうぬうさ

わさおうけあん行こ教さ紀てそよまうて池乃水る
後京極摂政家百
冬の中よ　　中宮定家房
みよへをタまくれい雅なの柱事よ浮うまるれ
待宵こ事を　　僧正禅信
ちれすつる山の松乃多ちぬる雪けのそそつまよ
冬の中よ　　前参議雅頼
新青あくく書い川清て河面ようへうやれうさ雲
永承四年内裏会よ初宮
大納言経信

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

高倉

永安 二年 鷹田社奇合

多紫

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

鷹狩を

参議家豊

野長明

後鳥羽院御製

前参議雅経

権中納言定家

後京極摂政前太政大臣

従二位家隆

藤原秀能

藤原秀頼

中務

清輔朝臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

新續古今和歌集卷第十八

雜歌中

建仁元年二月廿五日
内裏にて
月前遠情といへる心を
よめる

前右兵衛督基親

ながめやる心もとをく成ぬれば
月のみ袖に露ぞこぼるる

後京極摂政前太政大臣

ながめつる我が身の秋のゆふぐれを
月ぞそれとも人に語らん

摂政太政大臣

月前遠情

ながめやる心は空に通ふらん
雲路にまよふ秋の夜の月

前大納言實教

月前遠情といへる心を

ながめやる心は空にあくがれて
雲路にまよふ秋の夜の月

前右兵衛督基親

別れこし人のおもかげ恨こそ
月に残して帰る山路は

日

眺望の心を

後京極摂政前太政大臣

今さらに誰が袖乃末時雨
ゆくてそふまで紅葉ちるらし

前大納言實教

おく風も雲をや時雨ぬらすらん
月に残して帰る山路は

古

おのれのみ里をや古と思ふらん
月に残して帰る山路は

藤原定家朝臣

月前遠情

ながめやる心もとをく成ぬれば
月のみ袖に露ぞこぼるる

後京極摂政前太政大臣

ながめつる我が身の秋のゆふぐれを
月ぞそれとも人に語らん

摂政太政大臣

月前遠情

ながめやる心は空にあくがれて
雲路にまよふ秋の夜の月

前大納言實教

月前遠情といへる心を

ながめやる心は空に通ふらん
雲路にまよふ秋の夜の月

前右兵衛督基親

別れこし人のおもかげ恨こそ
月に残して帰る山路は

日

眺望の心を

後京極摂政前太政大臣

今さらに誰が袖乃末時雨
ゆくてそふまで紅葉ちるらし

前大納言實教

おく風も雲をや時雨ぬらすらん
月に残して帰る山路は

古

おのれのみ里をや古と思ふらん
月に残して帰る山路は

藤原定家朝臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

わさの泉こさえ風雅めく心も見えてつるる
家百首 寄浦泉
朗詠
風そよぐ入江の芦を分け過ぎて浦より出づる
太神宮よさのふね
鹿苑院入道前太政大
浦近のまがきが島みえそめて波にへだつる海士の
鴎哉 寄雲
源持康朝臣
名のみ立つ雲間あるさまながらたえぬ心を
祝詠風
弘安百首 寄月
従二位為子

[illegible]
貞和百首 寄月
後光厳前関白
[illegible]
寛治百首 寄月
兼中納言為忠
[illegible]
弘安元年百首 寄月
亀山院御製
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

天高暮山遠と云事を

支木北雁一
おもふこそそらなれてみ　大江千里
秋しらす　もき
夕日さす山のそ紅なおくれ　くとのみ
永和百首　　源等法親王

雲のたえまをいく度もなかめ
二十首奉ようしける　　平宗頼

須磨の私乃ふのうらなみ
武蔵野前訳を家かぜ

雅家卿名胡馬
ふきとをく苦むそ嵐のそ
家百首奉ようしける　　鹿苑院入道前太政大臣

もろともに波ふけ秋の月
親盛乃事よ
中の波窓の涙もみしまや
浪八重入道お四大臣
百首奉ようしける時山家
前摂政太政大臣
神慮ハさえ嵐のまかせて

いうせんまの居乃ありて
乱しらす
谷ふうこと乃ひと
立のうら猶よる山あ
お家猶とふまを
加もろはまの庵乃夕
岩義そ欲よこ
山里は猶のまもるひく
源元朝臣
明覚法師
前大僧正義運
小幡権
前大納言雅言
弘安百首
貞和二年百首
おなじ題
二品法親王覚誉

四辻入道前左大臣家にて山家月を

通さてもあかすよもすがら月は見しかど
　　憂世百そ言の葉

まこともそめぬ古社寺合より山家風
　　旧古社寺合より山を

月の山乃あらしそ風の音ならて
　　如願法師

雲百そ言の葉
　　前大納言忠良

四人山家の名よせてそれそれのさま風そうく
　　二條院讃岐

松あらくぬるく入るおく山よ我のみ庵のさひしさ
　　前大僧正義運

世をいとひ入山人の身乃
　　山家を

山あらくすむ人まれの
　　業平朝臣

やまぬくもまんと思ふ世とそれよ
　　中務卿宮尊雅王

貞和百そ首　　等持院贈左大臣

山ゆくとそて世のうきを

むこうれもみそ〇山里よ人道賜一条殿

熟そて又みそるれて

西法百そ首

山家時

後素材改首

新大納言公泰

ふるさと秋ふこし行山

訪しらす

西三位義重

山家不ころおのを乃

寂真法師

山の井乃水氏久浅久れそ

山家水そそ

院大僧都覚尋

世とそ心るても山乃

寛法百首

鷹司院按察

ん人の心とそそよもさ山水のふこそさろん

須しらす

後嵯峨院御製

あまこ久り新の若水みそ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

後押小路前内大臣

古 山里のまきの板戸おしあけて
　　君をぞまつ

おりひつる袖の中より古 山家なることの葉大納言為家

打ちつゞくこひもつきせぬ山里に
　　おもふ事をもとはぬ夜ぞなき

後水尾院御製

ゆきまれな谷のまきもれ今朝ぞ
　　とふ思ひそめてみよとや

栄仁親王

千載部中
　おほ内の花を
うつろふと人はいふめど
やまとなでしこ
すてがたきかな

新後拾遺部上
　元可法師
宮こ出て
やまぶきとこそ
なりにけれ

後
宮こいでゝ
ふるさとの
のみぞ
ものわすれせぬ

○

うき世とて民の白雲
　　かくしつゝ

刑部少輔範重

雪しげき世のうさをや嘗るらん
　　貧しき民の
　　身和百そ今よ

入道贈一条殿

いつくよ世をのがれまし山里の
　　庵もつきて
　　西法二も百そ今よ

三條入道左大臣

おのへ〳〵山の猶よりそれなれや
　　百それ今の中よ

後水尾院御製

朗詠
仮寝のうたた寝ながら
ふるさとの
わすれがたくも
つもるころかな

おもひ出ぬ
永和百首
河ぞひの門田の庵の夏の夜に
田家夏を
かりそめの門田のいほも秋風に
訴へらるる
秋の田のいなばかりせる
濃田の
百首
百首哥奉りし時
田家

敷大イ

後新恩撰入集
伊勢
小町
従五位下行大膳大夫兼播磨守藤原朝臣俊成

古
いく世しも
古
守覚法親王家
山家合
山家
家物語
源経氏

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

百そ今もとり〳〵に時速懐

好てさよをよふ人うた作の

仁安元年百首奉よ

まうの浦やかりねの枕とのたまくら秋

須〳〵ねて

波くらよりおきうら波松風

後光厳院御時和

きくさ事ねうら

勅なれかおもひのたえ葵時の

名を

ひきつくあをそそてよくそてつうけ

後拾光園院御百

勅なれかおもひのたえ葵時のなを

名を

ひきつくあをそそてよくそてつうけ

後拾光園院御百

百そ今もとり〳〵に時速懐

好てさよをよふ人うた作の

仁安元年百首奉よ

まうの浦やかりねの枕とのたまくら秋

須〳〵ねて

波くらよりおきうら波松風

後光厳院御時和

きくさ事ねうら

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

おくの浦乃(古)なそやそうんひなき海のまつ
奥和乃(古)新後撰集
よいうりて文代の撰集にあひてなをけふ
まとゐにてあるを
和奇(古)浦なみ八七十の老の波のよるひる
あまも釣船をこ集えうのえあられぬる時後よ
秋集にもみぢのの集よあひぬる事をうれ
秋河の師
勅入ことさ出るにてみるひあひ秋やうくん
この私述懐とも事成

藤原秀茂

おもひ乃(古)海や風と(古)ちりぬるく成すてに打みちらす力を歌さつ
住吉社(古)をてまつり奉る
後拾遺抄奏給の時
冬鳥や(古)山そうるく成すてに打みちらす力を歌さつ
住吉社をてまつり奉る
四位入道前右衛
後拾遺抄奏給の時
行中納言通俊

ふるき内教を家撰
ほうをみつるかうし死人のむいさ
ちをみつるかうし死人のむいさ
後拾遺抄奏給の時
行中納言通俊
住吉社をてまつり奉る
四位入道前右衛
藤原秀茂

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

なつてうきあつめもそいたのうちくれやまほ(た)

又　　権中納言通俊

君みよと死あけぬるをもゝとせもふるとつるの
後河面よ物名ろけれ
神よつゝて判(ね)
ふりくらすそうらをもそうらひ
まふ(ね)のたくさんをもそうらひ(お)
う
源兼政朝臣

ふ河を君しもさだめさたむるみのやうくん
源氏物語の楊明(ね)
の事を忠守朝臣

有家雅朝臣

つゝ(に)
心(古氏)
詠ら

丹後忠守朝臣

法橋成昭

人(古)
逐懐の心を

前大僧正道玄

神(古)
世路如煮(古)
心海上人

後拾遺

うしなひてのち人の
もとにつかはしける
くちなしの袴を

なでしこをよそへて見るばかりぞと
なにの色とか言ひもはてまし

返し

なでしこの色にはいでじくちなしの
つれなくとのみ言ひてやみなん

題しらず

読人しらず

つくこともたえたえ絶えをかぞふれば
夏和百そ三つよ

民部卿為明

三河国にまかりてのち人のもとにつかはしける

小槻為治

儒西国まで送りもうけたまはりて
てくに三つのみ行もるよ真未鴻を

前大僧正寛圓

身をうれへまもりの神のあるものを
いかなれば我もわれをか恨みん

雅還法師

須しらす

吉野河のりやとふみ世を渡りん

源光西

いかなれば我もわれをか恨みん

述懐

源和氏

なにとなく山のおくまで来ぬるは
中勢々家る親三百六十首歌よ月

藤原時朝

前述懐

春の月ものを思ふ秋なりけり

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

貞和百首 寄草

中言葉の字毎

後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

津守國道

大僧正道昭

前權僧正雲雅

後素圓流合雲雅大合

貫之

前大僧正定昭

明觀法師

源頼豊

聖遵法師

徽安門流一像

[illegible]月の五つ[illegible]
弘安百首[illegible]時
前大僧正隆弁
[illegible]
[illegible]
古
[illegible]
平師氏
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

新續古今和歌集巻第十九

雜奇下

貞和二年百首歌奉りし時

等持院贈左大臣

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜鶴憶子篭中鳴

[illegible]
[illegible]
百首奇

[illegible]
[illegible]
[illegible]

後
中もろくよ所もと
きしそのつくりき
りくおつきもりそ

[illegible]竹のようこの○をき風の吾に寒う風の吾にすもまう
竹為師とそのすを
九まや庭のうち所かそ竹
撰集竹を
ひそしそ九とそ庭の竹乃そ竹のかつ竹の竹
百そ今のまま時
竹へのう平清業行りよ景行のそ竹乃そ竹のかつ竹の竹
永和百首奥
ほうそく庭の九竹よそ凡一世よ毎よ言もそ
業賢門院
権大納言為を
権中納言雅縁
二条院讃朝
道朝

里竹とり事とよの御世北ろ
業光院御製
八隈入道前内府
何まそ里ぬ名ま北乃ぬ
北ま一心を
ろ里ぬよ彼見の里ぬそ
孔長百そ今よ竹
吾竹のうぬそ
ぬ一ろそ
後押小路前内府
前大納言為氏
前大僧正禅

[illegible]行のみたまや世中のうきめを清行ら
法一除前実白元
めの
鳥川のうき人のたえてとふ
貞和百首奇
き沈めあまのたく藻の仕打せおそてらみの都いおまうの
而てこのまし時
伏見山むかしの松の名を
左衛門
こころの三位源為
為卿を
為大納言資
為大納言資
為大納言資

日吉社にて

[illegible]

朗詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

家のやり川水の流も人心もうき世さながら
家百首奇ふ上陽人を
いにしへの宮女ありけむ春草の思ひ
及瓶香のかをりをうらやみて
みくもれる月をしそ思ふ
陵園妾
ふるさとの松の扉の光さへ秋もものうき窓の上の雪
扈原
二条院讃岐
寒き夜とうとうねたる床の霜
朗詠

支末三十六　文永二年七月　白河殿七百首　院十四度　山　権大納言長雅卿

遁おりて我君の外なきを
他家のかを
山深く水乃ながれとあてそうこの世ハ乃ミそ
中務卿宗尊親王
うき事とこゝろひるまそそぐ袖の涙

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166　　ガラス使用

いさらうらん世とうれて珍
月のものの
うき身ともなりてや神
詠しらす

なめきて久しく成ぬる
雑山の井中よ

いさこころをあやそ古
弘長百首奇よ
寄鏡并入道前太政

八條院高倉

月のものの
うき身ともなりてや神
詠しらす

なめきて久しく成ぬる
雑山の井中よ

いさこころをあやそ古
弘長百首奇よ
寄鏡并入道前太政

前原滝務朝臣

詠門院小饗

かうろうに百年をとうりて
弘安百首奇よ
寄雪細言雅書

弘安百首奇よ
寄雪細言雅書

そうるくも着とうてとうよ
詠しらす

源朝臣

ふるとも着とうてとうよ

短歌

ぬるまあるふ

雨そゝぐ野の中に独遠懐ごころをよめる

後小松院御製

やまもとの

あさけのそらを

うめのはな

おのへにひさす

いろのうつれる

神代まも

みのそのしの

なるしなびく

はるのあけぼの

年のはの

ひとこともの

いのれるみよの

むさうらの

なるしめのうち

みそひとの

玉ぼこの

八洲ぐにふる

ちよの神山

はつ雪の

ふりの下草

世をもるみねの

なをのこと

ひとのみよ

をそゝぐ世

やまの井の

水ぐきの

風の音

ふりの月日

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166　　ガラス使用

頓阿法師

むさし野の
うき世のやとに
露のやとり
秋よの月
やどりせし
山のあなたを
いつとなく
こゝろにかゝる
やどりつは
ものさびしき
うらのおく
なかめやるれば
中〳〵に
なかふかき
佛のれ世を

あらはれ
春はきぬ
ゆふつゆを
もやうの
さほ姫の
なかれの末に
雪にまじる
ゆく春を
なかめくらせる
いとゞなを
ぬれそふ袖の
あれをおもふ
ものゝ
我きみの
代よはふる
ものゝやとゝ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

折句

十三夜といふことを詠めよといはれて

名所の月やこゝハの月ならん

すみふり

松をそふ峯の山かぜ名にしおハゝ

こゝにもさぞなのあるへきを

さなからといふまてもなき雪のうち

物名

そでれ　後拾遺

末
ちる花をあつめてぬれば春雨の
そでは見
　　つゝまれぬ涙なりけり　　源重之法師

名にしおはゞいざこと問はむ都鳥
　　わが思ふ人はありやなしやと　　在原業平

末
我神に酒たてまつりてよめる　　坂上是則

よしやくさ枯れぬ限りは後拾遺

物名

ひとはいさ
　　心もしらず故郷は
　　花ぞ昔の香に匂ひける　　紀貫之

末
あまをとめ袖ふるらしも
　　天の原ふりさけ見れば春日なる
　　三笠の山に出でし月かも　　阿倍仲麿

物名

おほさかの逢坂山のさねかづら
　　人にしられでくるよしもがな　　三条右大臣

あふことを
　　いつかわすれむ
　　あすもこむとし
　　たのめぬ身は　　藤原敦忠朝臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

百首の歌の中に　祝の心を　宗徳法師

祝の日を雲の上まで聞えけり

賀茂重保

あやめ草ひきもかけぬ軒ばかは

雨夜の頃ぞ人もとはれぬ

雨夜の頃

僧侶の心

おなじ心を

人くるる松の陰より雨ふりて

月もれいでぬ夜半の空かな

俊頼朝臣

て

[illegible]

家
[illegible]

[illegible]

[illegible]

新續古今和歌集卷第二十

神祇哥

元禄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道二品親王道助

正治百首奉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

弘安百首 冬 藤原為顕

むら〳〵のこゑをさそひおろしつゝ山いづる雁の下紐もがな

擣衣

夜寒侘る袖

夏衣うすくなりゆくたもとかな山もとかけてかさむしろ哉

寄月述懐

雲井なる月のかつらの木にたのむこゝろの秋を待つゝ

雅経

宿中納言雅縁

袖の上もあかさけあるこの月の光にたれしらすらん

前大納言教良

秋ふかみ袖うつさむき衣うちの月もあかすも有かな

後福光園院殿家歌合 寄田述懐

西行法師

面をあらためん世のやくもがなうき身をてらす秋の月影

治承二年 神宮重保卿勧進

百首歌

月前恋

前大僧正慈鎮

秋の夜の月もえまたぬ里ぬれて我袖ばかりやどる白露

寄海述懐

藤原仁親卿

袖のみやあまのしほやの秋の夜も月にぬれつゝ明しかねつる

永暦二年閏裏

神祇を

一条法親王尭仁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我朝むかしの文のまゝ
弘安八年十月伯
御とし事をうけ
伯爵の松ハなりも
君うめやうす
もりうす
いくよまつりの浦
等持院贈左大

あまとをさこそとも
伯爵社
成恩寺関白前左大
さかもとの行ことも
山里乃
伯の
家伝遺懐とい
後撰物
津守国道
世とゝもにかくそ
伯の

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

雨そそぐ時神祇

雅永朝臣

[illegible]海をあらしもふかぬ春なれや
山葉作りそめてきゝ[illegible]

おくらひ海のうてつゝもつゝ

[illegible]

鹿苑院入道前左大

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月中旬

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

853
166

3245

正保四丁亥曆

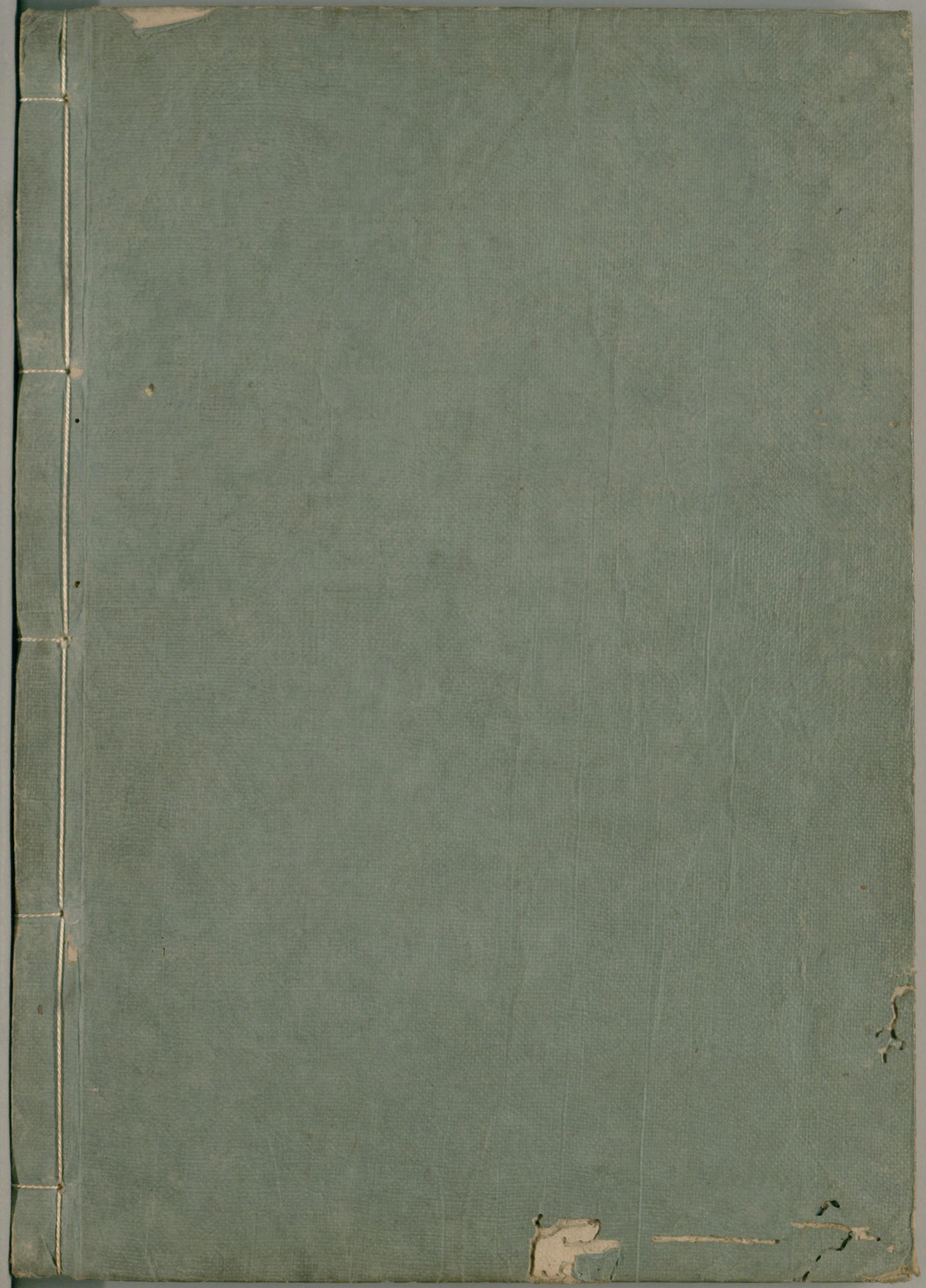
三月中旬開板

中御門通弱檜木町

吉田四郎右衛門尉

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用